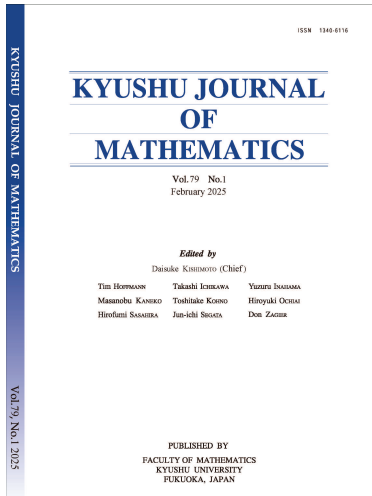


数学ジャーナルだより

Kyushu Journal of Mathematics



九州大学大学院数理学研究院
岸本 大祐

特徴

Kyushu Journal of Mathematics (略称 KJM) は 1994 年に創刊された九州大学大学院数理学研究院 (以下, 九大数理) が出版している数学の専門誌です. その前身は Memoirs of Faculty of Science, Kyushu Imperial University, Series A: Mathematics (略称 Memoirs) という九州大学理学部数学科の有志が 1941 年に創刊した学

内の紀要です. Memoirs は第二次世界大戦により 1944 年から 1947 年まで出版が中断され, その後, 1948 年に名前から Imperial を削除して出版を再開し, 1993 年まで出版されました. 1994 年に九州大学理学部数学教室, 工学部応用理学教室, 教養部数学教室が大学院重点化を機に合併され, 数理学研究院となった際, Memoirs は教養部数学教室の紀要 Mathematical reports, College of General Education, Kyushu University と合併され, 国際誌 KJM が誕生しました. KJM は現在までに 78 巻出版されており, 2005 年に J-STAGE を通してオープンアクセスジャーナルとなりました. 一部が無料のハイブリッドオープンアクセスではなく, 著者にも読者にも料金を請求しないダイヤモンド・オープンアクセスです. 予算削減のため 2025 年に冊子と別刷りの印刷を中止しますが, ダイヤモンド・オープンアクセスのため実際に不都合は生じないはずです. KJM のホームページと J-STAGE (KJM) の URL, Memoirs の情報が得られる九州大学附属図書館の URL は以下の通りです.

KJM のホームページ : <https://www2.math.kyushu-u.ac.jp/~kjm/>

J-STAGE (KJM) : <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kyushujm/-char/en>

Memoirs : https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/en/publications_kyushu/memscia

KJM は各年 2 巻出版され, 1 巻あたり約 200 ページ, 約 10 本の論文からなります. インパクトファクターと MCQ はともに 0.5 前後です. 今のところ論文の引用数が最も多いのは 2003 年に出版されたもので, 引用数は 233 です. KJM への投稿は編集室へのメール (メールアドレスは上記ホームページを参照) のみ認められており, 受け付ける論文は

数学の分野は問いませんが、英語で書かれているもののみです。少なくとも私が編集長になってからは、論文の投稿数は増えているように感じますが、投稿される論文の分野にはやや偏りがあります。特に、幾何とトポロジーの論文の投稿数は少ないので、奮って投稿をお願いします。現在、バックログを多く抱えているのでアクセプトされても出版まで時間がかかることがあります。

編集作業

編集組織は編集長1名（岸本大祐）、編集委員9名（以下、敬称略）Tim Hoffmann, Don Zagier, 市川尚志, 稲濱譲, 落合啓之, 金子昌信, 河野俊丈, 笹平裕史, 瀬片純市）からなり、実際の編集作業は編集長が事務の方一人の補助を受けて行っています。ただし、校正は外注しています。編集委員のHoffmann, Zagier, 市川, 河野は九州大学外の方です。KJMの歴代の編集長は順に塩浜勝博, 吉田正章, 幸崎秀樹, 金子昌信, 岸本大祐です。

KJMに投稿された論文はまず編集長が明らかにリジェクトすべきものを選定します。2割程度の投稿論文はここでリジェクトされます。明らかにリジェクトすべきものには数学教育の論文などお門違いの論文や、定規とコンパスを使っていつでも角を三等分できたり、Riemann予想をMathematicaで解いたりする超人の文書などが含まれます。この過程を通過した投稿論文は、編集長が基本的に九州大学内の教員にお願いし、レフェリーする価値があるか判断してもらいます。レフェリーする価値が認められた場合はレフェリーの候補をあげてもらい、編集長がその中から適当な方を選び、レフェリーをお願いします。その際、原則的に3ヶ月以内にレフェリーするようお願いしています。その後、必要なら論文の修正をレフェリーレポートに基づいてしてもらい、最終的なレフェリーレポートをもとに編集長がアクセプトするかリジェクトするかを決定します。アクセプトした後は、論文の最終稿や権利譲渡書類の提出とKJMのスタイルに変換した論文の校正をしてもらい、出版となります。KJMに届くメールはすべて編集長に届きますが、著者やレフェリーへのメールの送信や問い合わせへの対応、校正の外注先や印刷会社とのやりとりなど、事務的な仕事はすべて補助してもらっている事務の方が一人で行っています。これはかなりの仕事量で、この方なしではKJMは出版できません。

投稿者へのお願い

困った投稿者がごく少数いるので、その方々にお願いがあります。KJMの編集長になった当初は論文投稿の際のメールの文章や論文内の文章に驚かされました。（今でもそれなりに驚きます。）例えば、「I want to submit my paper」のような一文だけを書いたメールで論文を投稿した方が複数います。せめて宛名と自分の名前は書いてください。このようなメールに添付された論文ファイルを開くのは恐怖です。また、論文の内容はどうしようもないのですが、論文の書き方は学べばなんとかなるのではないでしょ

うか．せめて定義，補題，命題，定理，系の羅列はやめてほしいです．数学の論文は数学的な内容だけよければ体裁なんてどうでもよいという超硬派の方がいるかもしれませんが（残念ながら書き方がひどい論文は大概内容もひどい），そもそも読まれなければ意味がありません．論文を読む人への思いやりは忘れてほしくないです．きちんと文章を書いてください．

お金を払うから論文を出版させろというメールは送ってこないでください．昨今の世界情勢を考えるとお金でなんでも思い通りになるような気を起こすかもしれませんが，お金を払っても KJM では論文を出版できません．

レフェリーに関するお願い

レフェリーを推薦するときは固定したメンバーだけでなく，さまざまな意味での公正のため，できる限り幅広いメンバーの中から選んでください．

レフェリーには多大な労力と時間がかかるので，断られることも多いです．これは仕方のないことだと思いますが，レフェリーが減れば KJM の出版だけではなく，数学の存続という大きな問題にもつながりますので，できる限りレフェリーの依頼は引き受けてください．稀にレフェリーレポートにリジェクトかアクセプトかが明記されていないものがあります．これではボランティアで多大な時間と労力を割いてもらったにも関わらず，レフェリーレポートが役に立ちません．レフェリーレポートには必ずリジェクトかアクセプトかを明記してください．

上記の通りレフェリーは3ヶ月以内にできるようお願いしていますが，期間内に終わらないこともあります．その場合，最も困るのが音信不通になるのと「蕎麦屋の出前」を繰り返される場合です．前者の場合は新しくレフェリーをお願いするしか対処方法がありませんが，そのタイミングにいつも悩みます．一方，後者はレフェリー本人ができると言っているので，新しいレフェリーを選ぶのに二の足を踏みます．「蕎麦屋の出前」は何回まで許すべきなのかいまだに結論を出せずにいます．論文の著者はこのように無責任なレフェリーに当たるとただ単に無駄な時間を過ごすことになりますので，無責任なレフェリーを選んだことを私は著者に対して大変申し訳なく感じます．レフェリーを引き受けた後でもレフェリーできそうにないと感じる場合は即座に連絡してもらえると大変助かります．特に，学生や若手研究者の論文のレフェリーの場合，彼らのキャリアに大きく影響しますので，責任ある行動をどうかよろしくお願いします．

最後に

この原稿を書くことを含め，いつも KJM の編集を補助してくださる今林つぶらさんに感謝します．また，この原稿を書くにあたり，情報を提供してくださった金子昌信さんに感謝します．

これからも Kyushu Journal of Mathematics は皆様の論文の投稿をお待ちしています．